

日本鐵鋼協會第二十二回 聯合講演大會狀況  
 滿洲冶金學會第二十四回

## 目次

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| I 旅行日誌    | V 奉天に於ける招待晩餐會の狀況     |
| II 聯合講演會  | VI 滿洲重工業開發會社の招待晩餐會狀況 |
| III 懇親晩餐會 | VII 出席會員の所感          |
| IV 通俗講演會  |                      |

## I. 旅行日誌

9月19日(曇時々小雨)内地會員約70名を載せた日滿連絡船鴨綠丸は朝靄立ち籠める大連港に早朝入港、午前8時過ぎ一行は元氣に大陸に第一歩を印す。埠頭船客待合所外壁には「歡迎日本鐵鋼協會」の大旗が掲げられ、大會副委員長たる滿洲冶金學會々々、旅順工大教授長谷川熊彦氏、委員昭和製鋼常務理事久保田省三氏はじめ多數役員の出迎を受ける。直ちにヤマトホテルに向ひ小憩、この頃より案ぜられた空模様は小雨となつたが、正午過ぎ中食を終へ旅順戦跡見學に出發の頃には幸にも霽れ、一同勇躍遊覽バスに乘車、坦々たる旅順大道路を疾走すること約1時間にして旅順に到着する。案内者の説明にて白玉山、東雞冠山、北堡壘を經之より二班に分れ第一班は水師營會見所、二〇三高地を、第二班は旅順博物館、旅順工大を夫々詳細に見學、30餘年前の現形の儘残された彈痕慘憺たる爆破の跡、當時の皇軍奮戦狀況を目の邊りに見るが如く一同往時を追懷して感慨無量、先輩の血を以て獲た此の聖地旅順を時恰も日支事變のさ中に訪れ、益々銃後國民としての覺悟を固くし、かくて感激の旅順見學を終了、午後6時過ぎ大連に歸着、各宿舍に大陸第一夜の夢を結ぶ。

9月20日(晴)午前9時、一同ヤマトホテル前に集合、バスを連ねて滿洲資源館、滿鐵中央試験所を見學、星ヶ浦ヤマトホテルにて中食をとり、午後は滿鐵々道工場、滿鐵々道研究所等滿洲開發の源動力とも稱すべき之等の工場を有意義に視察した。

9月21日(晴)午前10時大連發急行ハトにて大連側委員の見送りを受け一路鞍山へ向ふ。午後2時35分鞍山着、先着の齋藤會長、鞍山側委員等の出迎へを受け直ちに電車にて約20分昭和製鋼所大孤山鐵鑛山に至り同所を見學す。本鐵鑛山は所謂貧鑛であつて鐵分37%前後であるが、全山これ鐵鑛であり、現に昭和製鋼所の主要鑛石である。其の採鑛法は前同社取締役久留島秀三郎氏によつて發明された液體酸素爆藥の使用による露天掘であつて、雄壯なる

その爆破作業に一同驚嘆す。午後5時半鞍山歸着、鞍山市内及湯崗子温泉に分宿する。

9月22日(晴)各協會に昭和製鋼所よりバスの出迎へを受け、午前9時半同所實科教習所講堂に集合、この日邊りより滿洲側會員も續々参加し全員殆ど揃ふ。

小日山理事長不在の爲久保田常務理事より挨拶あり、次いで梅根理事より同所の事業概要並に今後の擴張計畫を大圖面に依り詳細なる説明を受ける。其數字は遺憾乍ら發表を禁ぜられてゐるが、日滿鐵鋼國策に於ける同所の持つ偉大なる役割と、止まる處を知らざる同所の素晴らしき躍進、其の尨大なる機構と計畫に一同敬意を拂ふ。説明後4班に分れて工場見學に移り先づ同所理事梅根常三郎博士の發明に係る鞍山式還元焙燒爐を有する選鑛工場、昨年より本年にかけて700t爐4基を完成し熔鑛爐8基を併立せしむる鉄鐵工

場の偉觀、巨人の手を思はせて縦横に活躍するペンジュラム・クレーンに東洋一を誇る製鋼工場等を一巡、雄大なる鉄鋼一貫作業の現況を見學する。之れで同所見學を了へ晝食の接待を受け午後はいづれも同所の關係會社たる、神戸製鋼所の分身滿洲鑛鋼所、日本鋼管の分身日滿鋼管、及び鞍山鋼材の三社を見學、重工業都市鞍山の全貌を遺憾なく視察、午後5時半から昭和製鋼所食堂に於ける支那料理の招宴に臨む。

9月23日(曇時々小雨)午前9時2分鞍山發、古都遼陽にて昭和製鋼社線に乗換へ同所弓長峯鐵鑛山に至る。同山は鐵分62%の富鑛を産し主として鑛石法による昭和製鋼所の平爐作業に使用せられ、又他に貧鑛をも多量埋藏してゐる。尙この日晝食として接待を受けたジンギスカン料理は大いに一同を喜ばせ、齋藤會長も昭和9年弓長峯開掘當初開催された前回の滿洲大會當時の懷舊談の後「昨日の晝は和食、夜は支那料理、更に今日は蒙古料理の御馳走になり

云々」と一同に代て謝辭を述べられた程であつた。斯くて昭和製鋼關係の見學日程を全部終了し遼陽出發午後5時21分、愈々大會開催地たる奉天に入る。

